

☆☆「強く 正しく 健やかな西小っ子」に！☆☆

大村市立西大村小学校
学校だより

一歩前へ

文責：校長 高木 修
令和7年9月30日 No.11

☆☆子どもが「喜んで登校し 満足して下校」する学校づくり☆☆

◆ そろえる



世界の中の人々の心もそろおう	そまつかそだつておいてあげよう	だれかがきみにそだしておいてあげよう	はぐとそだしておいてあげよう	ぬぐとそだしておいてあげよう	心がきみにそだしておいてあげよう	はきものをそろえろ	はきものをそろえろ
----------------	-----------------	--------------------	----------------	----------------	------------------	-----------	-----------

2学期が始まって1ヶ月が過ぎようとしています。予想以上に残暑が厳しく、最高気温が30度を超える日ばかりの9月でした。その9月も今日で終わります。予報によるとあと少し暑い日が続きそうですが、朝夕は涼しさを感じるようになってきています。明日から10月。本来の「秋」らしい気候がまもなく訪れることを心待ちにしながら、子どもたちとともに、充実した学校生活を過ごしていきたいと考えています。日中と朝夕の気温差があり、体調を崩しやすい時期でもありますので、健康管理に留意し、元気に学校に送り出してくださいよう願っています。

さて、2学期を始めるにあたって、本校の生活指導主任である5年1組担任の東岡健太先生から、子どもたちに生活面で頑張してほしいことについて、始業式時に話がありました。それは、「あいさつ」「廊下歩行」「名札」の3点です。それを受け、どの学級でも指導が行われていますので、この1ヶ月、意識して生活している子どもたちもたくさん見られるようになりました。今後もさらに気持ちをそろえ、意識した生活ができることを願っています。

「そろえる」といえばもう一つ、意識してそろえてほしいものがあります。それは、トイレのスリッパです。

左上の詩をご存知でしょうか。この詩の作者である「藤本幸邦」氏は、長野県にある円福寺の住職だった方で、禅の教

えにある「脚下照顧（きゃっかしょうこ）」の考えをわかりやすくこの詩に表現されたのだそうです。「脚下照顧」とは、「足もとを照らし、かえりみよ」ということで、「他に対して理屈を言う前に、自分の足もとをよく見て、自己を反省しなさい」という意味です。つまり、自分の足もとにある「はきもの」を常に意識しそろえることが、自分自身の「心」をそろえることにつながるし、その意識が広がることで、みんなの心もそろっていくということなのです。

トイレのスリッパがそろっていると、とてもいい気持ちになります。同じように次に使う人もいい気持ちで履いてもらいたいと思ってスリッパをそろえると、そろえた自分も気持ちがいいと思います。その行為が連鎖して、一人一人が「そろえる」ことの気持ちよさを感じることで、「当たり前」にトイレのスリッパがそろうことを期待しています。

まずは自分の足もとから…。ここでも「一歩前へ」進もうとする子どもたちの姿がたくさん見られ、それが全体に広がって、みんなの心もそろっていくことを楽しみにしています。

◆ イングリッシュ・スピーチコンテスト

9月27日（土）に、「大村市イングリッシュ・スピーチコンテスト」が大村市コミュニティセンターで開催されました。市内小学生12名、中学生10名が、それぞれ自分の思いを英語で表現します。

どの子も素晴らしい発音でとても感心しました。本校からも6年のK. Aさんが出場し、堂々と笑顔で発表する姿が立派でした。よく頑張りました。